

平成21年2月

藺牟田瀬戸架橋工事に伴う船舶航行安全対策調査専門委員会

1 委員会報告書概要

本委員会での検討事案は、平成22年度頃から約11年間の長期にわたる架橋工事であり、全体工事工程表のみで具体的施工計画がまだ策定されていない状況下での検討であり、工事中の安全性検討にあたってはあくまでも作業状況を想定して検討を行ったものである。そのために実際の工事作業においては、検討した内容と幾分異なることが十分に予想されたが、藺牟田瀬戸利用船舶の通航路を確保することと工事作業の安全を念頭におき、実際の作業に当たって基本的な対応策を示したものとなった。

なお、長期間にわたる工事作業であり、瀬戸を利用する船舶の大半が地元漁船であることから、工事期間中、きめ細かく作業情報の周知・広報を行い、理解と協力が得られる体制と環境を整えることが最大の航行安全対策であると思料した。現場は、潮流もあり、外洋に面して気象・海象の現象変化が厳しいことから、大型作業船や大型起重機船等の運用・運航にあたって、無理の無い作業計画と適切な判断で安全を確保するとともに、建設中の構造物や現場付近で待機する作業船等についても、工事が実施されない夜間においては、規定の灯火や照明を確実に掲げる等、細心の注意を払って長期にわたる工事期間中の安全を確保するよう提言した。

2 調査等概要

- (1) 調査概要
- (2) 藺牟田瀬戸架橋の概要・施工計画等
- (3) 航行環境
- (4) 架橋工事中における通航船舶の安全性の検討
- (5) 完成後における航行船舶の安全性の検討
- (6) 架橋工事中の航行安全対策
- (7) 橋梁完成後の安全対策